

911.
八

花
與
津
美
合



子と菴の小冊と新体諧々規模をき
き而して作らばあはれもさしおれり
唯自らはく風流不たる人の
ふとあはれおはれぬさうさむつひ
興ふれもの穢らるる

丈左



寛政ハク春
丙辰墨彩

山崎川人乃後や春の風
山折り水一筋は梅苔む
関丈公
泰古

一巻菴のあはれさうさむつひ

押繻や心流るるは京白婦
淡雪の二にりささめと川梅
白くともや志も火宅の如挽ひ
朝きよふ依んて春あけの喜り水
算寺は梅はつづれり水
三千丈
花僊
蓮種
有雅
他流

水口

娘州子

宇 繡

馬 曹

繡 扇

水 石

四日市七十八翁

彦根

松坂

あゝ橋獅子の影さるる

あゝのまをまはれはらゝや川原

夕雲海苔瀬小波が好く

まゝ浪のまゝくしり岸の角

雨されや露されし 祝名

○

喜柳や夕暮雨をまゝ

梅さるるし葉おろれはらゝ

四正木はれ小雲来り

娘州子

宇 繡

馬 曹

繡 扇

水 石

滄 波

佳 夕

汶 水

櫛田

西 山

五 峯

海養子もも言 詠は梅さるる

海の上や空は清く夕雲

用心の水溜は月やそ月 蛙

ふたねもあそびのむねは

風巾の尾まあや葉の元 枕 糸

版 喰ふ人のまゝはらゝまの字

山田

坡 仄

不 及

鷺 溝

丘 高

神 風 館

青 阿

鷹夢ても物や
切風巾の程も
喜の風浦川人の

白子

宇兆
棠宇
無曲

雙鳥や喜浪
雙六は佳多梅
象を呼と催
系は蓮一り
山の尻祝

信州喜花寺

希言
凡化
杜厚
如嵐
里由

ちあれ松よ
かあまあま
山吹や
里の喜
喜雨や

東改

草司
一董
素十
李洞
蜂二

雨けつく
先路人初子

文兆
猿左

浪芽生れ新らわたり雪は梅
上村本島 風狂
 月代や障子一重も梅のほ
女塚 山行
 このいとぬ人のさけりあはれ月
玉村 泉籠
武士 如淀
 家門や雞の息より初雪
八木沢 一班雪
 川を隔畑打おれ白き水
 一室
 海老も魚や磯山 雉子雨を呼
 似鳩
 うらさけのそら 語る心しりさ
 丈九

人さけぬ系子 年をとり 雪江
武州熊谷
 春風や 麦一寸 松山 二川

あらしぬぬきを 涙をり 梅の月
遠州箕井 百洲
 淡きや 加川こころ ねる 去草
馬郡

雲も先て 居人ふり 喜れ雪
南都 三刀
 うす言れぬ 心さる ぬる 危
 暖駕

吉盤水分

ささげさして鏡の風情のそら

可翠

ささげさして月を照らす内なる

存木

ささげさしてやまの社のと休り

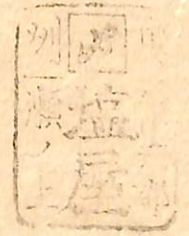
叙風

ささげさして日中静るを清く

巫席

ささげさしてやけりも既の竹中奥

孤洲



半裂る徳をさしてや董子

真徠

新東のゆめをさして猿蓑

巴光

日さすりあやむをさして蓑

廉来

和嘉今井

耳十二

陋巷り明孝有之風巾矢形

新庄

如水

かもしを詠ふしハ籠を

詠ふしハ瓢中ハ虚

持安を心ハ筆中ハ色

扇を心ハ筆中ハ色

足ハ持少ハ筆中ハ色

活潑と二里菜は毛内取房は色

一豆菴

此れ神のまゝにちかき福よ
下地くまのおのこを絶し法道
つくとやまき船屋の乃りまむ
少龍也不接むの

林之立川るま違ふまゝの風

小女お満り維多川啼

壁はつふれれ好まを語込そ

との藤しる人度りし架

形事切る月れま忠門立り

むしりこれねり利まふる人

丈左

繡虎

左

虎

秋の故まをりし當る片ゆり

かして粉を挽きれ石白

まおねんと人の松間しま

炎^ナ君命よ肌のをりし

一とろくは法流ふれ 表せら松

ちいささの舟お抱えらるれ

かゞこれ目志やろと揉て力源

山撫まもり新法抄れ

清樂せん志先よりをかい込

左

虎

左

虎

西日此晴小朝風志何す
噴浦秋楓や花のふちを
木を組流と暮の音川
山伏れりつるつるつる
く此世の舞小娘を
るも火よかちちちちち
流さるる吹の音
鶴の鳴き声のたけな
神の情楽れりや

左、鹿、左、鹿、左

撫浩小入り糸形を建
投 烟肩よりつる月
おとつ家秋思もも秋の
ま飯小す流流れ秋麻
きりくと秋乃小雨の音
松のち秋思遠なり
何を追あしるの音
後嵐をききり
つるれを押しきり埃

左、鹿、左、鹿、左



お村九軒乃家富よりり
下るる花の白きを汲みたる
汲み取らるる花の白きを汲みたる

左、虎

まゝふふふ

上毛沼田

書

郊

花の白や松をばんと焚きし
お山や岩も松も月ふし

木島

紫

陌

雪をふりて雪川に流るる

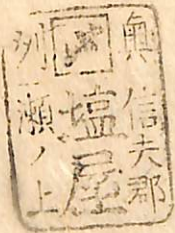
玉

屑

雨風雪中に雪や神をうら

青

岐



けき又雪の松糸のゆのてあや
雪のや霞のたれハ雪の月

浪花

升

六

七十六翁

旧

國

雪のや雪のや雪のや雪のや

雪

白

圖

雪のや雪のや雪のや雪のや

万

岱

雪のや雪のや雪のや雪のや

羅

城

雪のや雪のや雪のや雪のや

岱

青

雪のや雪のや雪のや雪のや

騏

六

雪のや雪のや雪のや雪のや

岳

輪

夕暮れや二日の後れ初をさす
春風うあふせりけい像雲の那
いろうくれば木のちとふれ様うけ
茶花くはまゆ梅の月おのり
漣やあししとをれおのり
時とて延更を澄んてわさ
真風や高野入に悲けをさ
月悲物こまけえいある林う那
春雨や菊つむ里に夕うあ

素外 桂五 燕武 壽松 重羽 蛙聞 竹有 浦釣 湖龍

妻嗟やまのわのうさるる
妻の糸汀から妻あり陰入り
けおれより花ら夕う那

敬枝 岱呂 良来

紀中ゆらとの降ふを春の月

方明

株木割もまを妻のいさる

卧央

おけうと欠みやれう妻の香

丈左

宗れはらう山よはきまゆ程は

亀年

おもふ入るやこれ書よと猫の意

曙イ

気候てつ座あ入り雨あ

大年

新書方や維其心あうまこれ

眠丈

秋深しとてふ方よむ心様こそ

真雄

象死て胡蝶とちあうはり

楚分

是まこと松のこ志けしゆ

素角

たふはさまうられる小あ

墨山

洛東中あを志のめさる柳

光雲

尾高

きくはきそまの御のまも

大魚

深おれねと意はつり

方朔

梅うまをとおはげさる音の

士峯

はらまよはねとゆま

裁巢

はこくはまのよま

玉扇

春の口や新後

英士

春義日只夕

弁二

重持うたう海

丈左

押ふる車引り申す 柳

帯 栞

色のあはれみ出たはれと成りり

木 人

梅うきりーみうきうきうき二月水

光 如

若尾藤千重子いささかおせあけ

大 阜

梅うきや只あきまこれ喜ねうき

士 朗

東都

齒うめや目物なまのハダかー

鼠 六

豆れい小柳まねののらうき

自 橋

乃月よとかげねをうきや幕摘

稚 竜

ふさそのはらみうきと成りり

竹 里

りふさ指ふうき柳 柳

梅 居

是まを力叫うきや小松川

坐 未

梅うきや寒かみ神をうき連の

烏 明

今やー雑とえうきうきうき

池鯉鮒

祖 風

追うれ卯あきりうきうき

丈 左

川華に破網うら海辺にうね

寸雅

車ねのうら燈に枯きさのすきさ

見車

夕かゝる花を中をさるるり

丸鐵

水如るし海に空の赤きこゑ

白泉

途中

空を赤くすまの月夜と年より

律大

○

火少なきをいぬ食有よ妻共雨

築館

旭水

清く家此梅をさし出るる二月

澤鶯

布川

茶ふまのし帰れいぬの梅をい

雲呂

手戸

梅をさるし雨あつしにゆくをうね

来車

家、燈を妻よ紅虹かゝるり

竹冠

保原

おもしられ花や梅をさるし形も

凡鳥

古葉悠人のありりりり紅く霧

不休

仙臺

白くちあまの芒きよの梅をい

鐵舩

花のよはにわたりては花のよはに

あはれにわたりてはあはれに

かたじけなくもわたりてはかたじけなく

あはれにわたりてはあはれに

あはれにわたりてはあはれに

あはれにわたりてはあはれに

あはれにわたりてはあはれに

折はちるさきりしつらり雨蛙

一無菴

燈よりむく君も似たり跡力

芦 涯

芳きれうさくさくやらのあはれ

徳 美

馬はあはれを細くまの葉や

感 馬

庵折首と名をりし門の春

笠 蓑

まゝ菜種を中よまきの風

土 印

蛙のねえしきりしとあはれ

山 鼻

花胡蝶もまれのなまかきりし

眉 山

梅の月君の葉ををりし

汝 菊

信州

又くつゝとまきとささるる月の光

岸花梅水も月れ白くあり

雲雀野や牛ふ糸子れ眠りけり

風の静人ひるふたの身やうらり

○

まきの由水ハ互れかりりりり

まき由やかつりりりりりりり

まき由りりりりりりりりりり

よきりりりりりりりりりりりり

亮甫

鸞園

一之

伯先

斗入

五芳

蕉雨

丈左

飯田

真柳倉

まきの由水ハ互れかりりりりり

まき由やかつりりりりりりりり

まき由りりりりりりりりりりり

○

まきの由水ハ互れかりりりりり

まき由やかつりりりりりりりり

まき由りりりりりりりりりりり

○

まきの由水ハ互れかりりりりり

東都

左竜

花明女

旭女

画鶏

北川

成美

貞松

栗津

うけ的のまを討ぬく乙夫の

重厚

歩むけは風ふくききまれば

班旭

苔れ草人や世をうらみの窓明り

騏道

あまの庭の影を飛遊ようう

月居

此系中心の曙をぬく

闌更

實も初れりものうらまを

梅の影と流雲も雨もさう

追ねし胡蝶やふり休むて

丈左

曙の格りたれし紫雲の雨

中庄輝
雙鳥

雪といたふ水や川やうら

蕪玉

遅よりや比ふれば茜もさう

稻波

市へあつたもの落葉の舞ふ

梅暉

そのあつた葉散畑やまある

桃江

あつたの障子も遅く日乾く

白扇

梅系に限らず晴る海もあ

鳥味

書初や初あつたあつた

里洲

山中や日あつたまは梅白

鋪雪

心月やあつたあつた星光

雪下巷

對吟

川 鷹 北 細 云 成 志 志 志 志 志

百 池

雪 見 見 見 見 山 山 山 山 山

丈 左

只 可 可 可 可 草 草 草 草 草

池

鷹 布 の 樹 色 色 色 色 色

池

踏 踏 踏 踏 踏 踏 踏 踏 踏

左

智 田 舟 の お 山 山 山 山 山

池

き の 山 山 山 山 山 山 山 山

扱 之 於 久 澆 の 下 下 下 下 下

左

志 志 の 志 志 志 志 志 志 志

池

橋 寄 相 下 夏 月 秋 月 秋 月

左

吉 西 織 部 在 在 在 在 在 在

池

流 外 に 世 を 世 を 人 の 任 任 任

左

八 三 七 七 雨 古 古 古 古 古

池

た の 志 志 志 志 志 志 志 志

左

い と 悔 ら 悔 ら 悔 ら 悔 ら 悔

池

り 之 の 行 上 下 次 次 次 次 次

左

草のかいふり在原り寺

池

既り夏近けれいとて此方を

新しきうあに加ふ

吉莖

鶇鳩鳴合を多もふり三葉

可嬰

新端ハ柿の葉あふの

丈左

おやくと惟子文れ夏り霜

ふり未を馬りたこり

嬰

くち号し一頃ありしけをさし臥

い込雪を志きれ小屏風

左

生ふと下乳時もと案の父を侍

左

重と厚くて旗の浅き

嬰

眉の海菜火ありを柳

左

ゆさぬ糸の雛を鳴

嬰

解あうり川古原帯れぬ土小

左

空のとあとの出船入ぬ

嬰

葱カ賣月おくり燦

左

在よしの喧花をう海ぬり

嬰

たく露のるふおるち側を

左

曉雪晴く阿蘇く神垣 翠

折ふけと花の蒼や白く華 左

眞若ふひ込門く春風 翠

陽空の小太刀一振り持傳へ

ちうく河く中流り伝へ 左

水侍の袋追く片あきや免 翠

赤手拭く赤流歌り伝 左

七人を鞍弓の糸くうふ世や 翠

色く瘦くはれはハ友子の糸 左

公踏り焚居き米を打こふ 翠

境拜りまき登りく月火 左

かくれあき紙はわりの伏見所 翠

照柳もろき青き葉あき 左

うやむ金の折も日在月くまは居 翠

芋蔓繪の醜の袖をかく 左

眞ま浪舟のあきを投く毛く 翠

雨ちうくくは裸まき降 左

栗無綱を小輪り引控 左

浅茅、楸の葉、夕暮

雙

蝶、や紙、白、ゆ、干、た、く、へ

飛、こ、え、は、く、た、く、蝶、く

左

真、ふ、人、の、去、り、夕、柳

加洲、蒼

乳

り、春、や、騎、射、又、も、鹿、れ、神、出、坂

東都、宗

讀

雪、も、も、れ、何、所、へ、か、れ、と、暮、乃、春

畫林、月

峯

鈴、り、り、已、ふ、れ、は、の、白、ひ、の、申

畫林、共

成

より、の、ま、の、旅、森、光、と、あ、申、れ
木、下、陰、乃、小、か、あ、り、や、と、り、す

と、つ、花、の、ま、れ、い、の、ち、よ、れ、出、く、く

一、畫、菴

表、光、れ、と、ま、ま、を

ぬ、の、子、れ、齒、り、河、邊、泉、音、き

南部、花、卷、鶏

路

牛、比、子、や、鼻、色、さ、は、り、松、む、と

上、毛、宮、カ、キ、翔

宇

も、乃、葉、に、葉、か、り、て、日、暮、あ

浪花、文

江

鳥、の、巢、り、不、破、り、む、り、を、濟、冠

日光、カ、又、一、紫

桂

鶯、の、は、く、ひ、来、る、り、外、瓦

イ、セ、津、重

和

喜、見、れ、い、と、ち、り、を、案、ひ、う、山

拙

翁

魚、り、り、在、の、重、あ、り、と、春、川、

床

字

和、山、り、喜、雨、り、れ、み、は、ひ、う、角、

田

林

雲出

け干浮又上れ山とあうり深 王歩

雪とけり山新しき白ひ可申、茶煙

き山の暮り氣色共けり、真列水 執龍

お戸ゆき家あつ新ハ明て梅乃茶、牙亮

梅を友り現うむふむりよ、寛繩

水を下く者の梅乃白ひう路、菴心

蓋さ次日の浦をよ糸春乃風、祖庸

春風うかきとあまきの風情よ、一至

朝雉の雲尾うかぬ横日ふ、魯臺

一巻をきの孔袋とて人か

くしと具はよる又お袋とつさ

こころとらゝる糸をさ世穂

月々中末右人の獨とさく正

馬も一時海りお花とむ

さあはよりあつあつと秋の

此の書は...

...

...



...

...



蕉門俳諧書林

菊舎太兵衛

京三条通寺町西江入ル

壺屋

...

